

〈第3回地域部活動推進委員会 議事概要〉

日時：令和4(2022)年6月1日(水) 14:00~16:00

場所：県立図書館 サークル活動室

- 1 開会
- 2 挨拶(梅崎次長)
- 3 委員紹介(自己紹介)
- 4 事業説明(宮崎指導主事)
資料P4より説明
- 5 議題

発言者 ○委員 ●事務局

(1) 令和4年度事業計画について

○磐梨中学校で実践研究を行っている。(P4 運動部6(ソフトテニス部も)、文化部2(美術部も)。) ドリームタウンプロジェクトの中で研修も行っている。

ソフトテニス部については、卒業生を中心に6名の外部指導者がいる。文化部である吹奏楽部と美術部は、地域と関わるのが難しかったが、美術部は、地域おこし協力隊の活動の一環で、旧熊山町の町おこしを一緒に行う活動に参加している。

今までの朝の部活動を、今は地域部活動として行っている。朝の練習に関して野球部は地域の方がいて活動できるが、テニスはできないという課題が出てきた。そこで、複数の部で「合同部活動」という形でやっている。IPUと連携して、スポーツ全般のトレーニングの計画をしている。資金面に関して課題がある。また、土日で教員が出られないときに、例えばケガが起こったときの保護者連絡等をどうするかを考えないといけない。緊急連絡先は個人情報であるので取扱いが難しいという課題がある。

○部活動指導員を町で雇っている。すべての部活動に部活動指導員に入ってもらって、平日と土日のどちらか一日を指導してもらっている。今まで、土日の指導を部活動指導員で単独指導を行っていたが、現在は、野球と男子バスケと男子バレーの指導員がいない状況だ。部活動指導員や教員の転勤に伴い、短期的な形になってしまった。課題としては、持続可能な組織を作りたい。そこで、スポ少に関わってもらえないかと模索しているが、地域のスポ少も人材不足で悩んでいる。スポ少としても、自分たちが育てた生徒に関わるので協力的ではあるが、これから作戦を考えていく。スポ少の指導者の人材不足に関しては、生涯学習課とも連携を図っていく。今後、持続可能な人材確保を課題にして取組を行って

いく。地元企業からの寄付金は難しい。今後、企業を訪問しながら、状況を把握していきたい。

○高梁市は合同部活動をテーマに昨年度からの研究を継続している。野球部の活動として、吉備国際大学に協力してもらいながら、合同部活動を模索している。高梁市の地域部活動推進委員会に市内の全ての中学校に参加してもらうことになっている。テーマとしては、持続可能な合同部活動ということで行っている。教育委員会が主体となり、スポーツ部局との連携をして行っている。移動手段が難しいので、ICT活用も一つの工夫として行っている。

○実践研究市町に一通り発表をしてもらったが、意見や質問はあるか。

●資料の5ページのポンチを見ると、これからどんどん子どもの数が減っていく中、今までは学校が子どもたちのスポーツ・文化活動の場を設けていたが、今後は学校主体での活動が難しいため、地域主体の活動に移行していこうということが部活動改革の目的である。趣旨は、子どもたちのスポーツ・文化活動の場の確保だと理解している。赤磐の発表では、土日の活動でケガがあったときに、どういう連絡をすればよいのかという不安がある。早島の発表は、学校が抱える活動を教育委員会と一緒に考えていきたいというものだった。高梁の発表では、持続可能な合同部活動が大きなテーマだというお話があった。要するに、今ある部活動をいかに維持していくことが大事なのか、それとも子どもたちのスポーツ・文化活動の場を確保していくことが大事なのか。私は、今後、子どもたちの活動場所を学校で確保できなくなっていくことから、地域で活動場所を確保していくことが大事という理解だ。

○今の発言の方向性について、共通理解でよいか。おそらく、学校現場の先生方は、部活動の場を地域に移行していかないといけないというのは何となくわかってはいるが、不安としては、学校で行っていた部活動を地域にそのまま移行するイメージがわいていないのが現状かと思っている。

○文化部の委員会に出席した。その中で話を伺ったが、赤磐市は課題解決型で行っている。その他に、ニーズ充足型、地域移行型、の3つある。例えば、赤磐の場合、運営主体は教育委員会。ニーズ充足型や地域移行型であれば、大学とか文化施設、文化団体、という資料ももらった。地域の実情に合わせて、地域移行を行っていくと理解している。

○資料の19ページをご覧いただきたい。県としての地域移行のイメージ、たたき台である。国としてはフェーズ3を目指して行っている。つまり、子どもたちのスポーツ・文化活動の場が完全に地域移行した形である。その前段階として、フェーズ2の学校と地域の混在期がある。国としては、平日の活動も含め、できるところから進めていくような方針を出している。

●明確な答えがないことを共通認識したい。ただ、何もしないで待っていても何も起こらない。何もしないと、子どもたちのスポーツ・文化活動の場が厳しい状況になっていくので、今のうちに取り組みを始めていかなければならない。みなさんと一緒に考えていきたい。

(2) 地域移行支援コーディネーターについて

<事務局説明>

○早島町のスポ少代表者会議に出席したが、コーディネーターと一緒に考えていく立ち回りで考えている。

コーディネーターについて、何かあるか。

赤磐のドリームタウンプロジェクトは献身的な取り組みをされているので、赤磐の中からコーディネーターを依頼したが、まだ始まったばかりなので、他の地域にお伝えする段階ではないということだった。各地域でコーディネーターにふさわしい方がおられたら紹介してもらいたい。

(3) 国の提言について

<事務局説明>

意見なし

(4) 県からの報告・提案

<事務局説明>

意見なし

(6) 質疑応答

○22 ページ表「文化部活動の地域移行モデル」の課題解決型のところで「学校の顧問が対応」は「兼職兼業する現職教員（顧問）が対応」というのが正しい。立場上は学校の顧問ではない。その他のところに「現行の活動の在り方を大きく変えずに行うことが可能」と書いてあるので、先生のまま部活動の指導を行うのかと思われてしまう。活動場所のところも「学校」と書いてあるが「学校開放を利用する」という表現がよい。また、それに関連して磐梨中の活動で、「課題解決型」と捉えられているが、ドリームタウンプロジェクトは、将来的にはフェーズ3に向かっているということか。

○今、中学校の校長先生がその事務局の中に入って一緒にされているというところで、少し学校の方が多いと感じている。校長先生と話をしていく中で、どちらかがやっていくというのではなく、どちらも関わっていかないといけない、というところで、学校もその兼職兼業でその中に入って会議をするであったりとか、校長先生も事務局として、退職した後も残ってできたらという話をされている。

○普段の取組は、まさに学校と地域が、学校か地域ではなくて学校と地域という新しい形を作るための取組なので、現状の学校が抱えている課題解決のためにやっているという読み方だと、ちょっと小さい捉え方と感じている。

○磐梨中学校は全校生徒が 150 名ぐらいなので、それほど大規模な学校ではない。磐梨中学校は、部員の確保や指導者の確保が大きな課題。部活動の数は減っていないが、クラス数が減っていくので教員は減っていく。今後、地域の方に応援してもらって、部活動という生徒が活動する場所を確保していきたい。

○たくさん思われているので、そういった意味での課題かと話を聞いて捉えている。冒頭に発言もあったが、結局学校の部活動そのものが抱えている課題が解決されればいいということであれば、学校の部活動が今後も続くということになるが、そうではないということ。学校の部活動が抱えている持続可能性の問題があり、それを解決するために国の方向としては場が変わることと示している。学校の先生がそれに対して兼職兼業を含め、どういう関わり方をするのか、あるいは指導に直接手をくれないけれども、地域での活動の様子を、その子どもたちを見ている学校が、あの地域でこういう活動していますよとか、こういうふう子どもが育っていますよ、というような情報共有するという関わり方はもちろん、教育を担う人間としては必要なことなので関わらないということはないかもしれないが、明らかに形が変わっていくと、途中段階としてドリームタウンプロジェクトがおそらくあると思うので、この表で見てしまうと、なんとなくその学校の部活動が抱えている課題を解決するっていうことで、何か終わってしまいそうな感じがして、少しそこが不安。いろいろな先生方がこれ見たときに部活動の問題が解決されればいいので、それを先生方で協力して解決しようということになってしまうと、少し萎縮化されるという危惧があったので、お伺いした。

○この表は文化庁が示したものだが、自分も違和感がある。この表にある課題解決型は、途中経過なのかと思い、文化庁に確認したが、このような形も最終的にある、という回答であった。まだ文化庁の答申そのものは 7 月に出る予定であるので、それを注視しながら今後決めていきたいと思う。

○この表で解決するなら、課題解決型が手っ取り早い。言われたように、このパターンでいったら、どう見ても自分の学校の課題を解決して行って、講師がよければ、地域で外部講師を担う。自分の学校に合うスタイルをこの表で考えたら、三つの中では一番簡単で、みんなさんこのように思うと思っていた。

○学校の部活動が残り続けると、地域移行になっていない。そういう意味で高梁市さんとは実は、年度が変わってからオンラインでお話をさせていただいたが、合同部活動を進めるというのも、現状の部活動が抱えているチームが編成できないという課題を直近で解決

する策ではあるが、合同部活動の延長線上に地域移行が描けるのということをやはり考えておかないと進まない。合同部活動は、結局、学校の部活動がこの形でずっと残り続けるので、合同部活動の先に何があるということは見据えながら、進めないといけないということだと思う。オンラインでのところでは、地域で草野球をやっているおじさんたちもいるだろうし、スポ少で野球をやっている小学生の子たちもいるから、野球コミュニティみたいなもので、大人が指導に入ってくれる形もいい。一緒に野球をやっている高粱コミュニティみたいなのができたらいい。それが将来的に中学生の野球をやる習慣になってきたら、それはそれで面白いというお話もさせていただいた。磐梨中で美術部が地域おこし協力隊の人と一緒に活動しているというのは、まさに教える、教えられるという関係ではなく、一緒に活動する仲間になるという意味では、活動の場が地域に出ているし、学校の先生にも子どもの様子などを聞きながら、子どもの様子を見て、あの子最近調子いいねとか、ちょっとなんか元気ないけど大丈夫かな、とかいう話ができたら、それはそれで子どもも育っていくのかな、というふうに思う。そういうことも含めて、あり得るかなと思う。

これまでの各課からの報告も含めてディスカッションできる時間がある。率直にこういうことがちょっとよくまだわからないとかそういうことも含めて意見はないか。

○総合型地域スポーツクラブからの現状という、まず今年の2月に全国総会があり、後半で、学校部活動との連携について全国の会長等々の意見交換をする場があった。そこで最も多かった意見は、まだ情報が行き渡っていない、市町村の理解がないと前に進まないというものだった。また、保護者の理解も必要。今朝の山陽新聞や、昨日のNHKのニュースで、取り上げられたと思うが、大半が指導者の確保と保護者の理解が課題だと言われていたと思う。国の提言の中で、会費のあり方、そして20ページに会費については保護者が負担して、それぞれの総合型地域スポーツクラブでいうと、そこがお金の徴収をするのだろうと思う。マスコミ報道では、親の負担が年間1万円ちょっと増えるというようなことが具体的に出ていたと思う。保護者も会費を徴収されるということになると、口も出してくると思う。そういった方の対応などを受ける団体として、いろんな課題は多くあるが、私個人としてはこれが一番大変だろうなと思っている。特に総合型が受け入れることになれば、既存のクラブの会費の金額と指導者の謝金が新たに來ることによって契約をすることになる。お願いする指導者の謝金等々は当然違ってくるかなと。そういったことの調整などを考えると、課題は多々あるかと思うが、この部分を年間通して総合型となり、誰かが受けるような形をしなければ、なかなか厳しい声を裁くというのは現状では大変かなと。昨日の報道では、具体的な金額は確定ではないが、少なくとも、保護者の負担がいるということが周知されたわけなので、これも結果として言葉悪いが、良い指導者が当たれば、そういう声も少ないだろう。全てそういうことばかりではないと思うので、そのことの対応が、ある意味一番私は大変かなと思っている。

ちなみに私は備前市なので、備前市の状況について、教育委員会の方に聞いたところ、現状では、このような組織を立ち上げるとかそういうことは考えてないとのことだった。担当は学校教育課ではなくて、スポーツ担当部局がやるというようなイメージがあった。現状では、学校からそういう要望があれば書面で体育協会の関係団体とか、私ども総合型

にはまらないようにして、指導者がいませんかというようなやり方を今の段階では考えている。それでいいかどうかだ。このことについては3月の議会で、ある議員から一般質問が来たので、今のところ教育委員会もそういう考えだろうと思う。ただ、日生中学校ではすでにアーチェリーで外部の方の指導を受けているようだ。特殊な競技ということもあって、土日については毎週かどうかは聞いていないが、アーチェリー協会から指導に来てもらっている。

○お金の問題であるが、スポーツ庁の方や、提言案の方でも、適正な運営のために必要な額を設定する必要がある、自治体や国からの支援も必要だ、と書かれている。貧困世帯の子どもたちへの支援というのも、予算措置されるのだろうと思うが、企業版ふるさと納税など、自治体が資金調達をして分配していくというようなことも書かれているので、受益者負担だけではない色々な方法でお金集めをしなければいけないということだろう。

○今現在の、状況をお伝えしたい。日本中学校体育連盟では、大会のあり方については具体的に大きく参加のあり方、引率監督のところの問題になってくると思っている。スポーツ庁の提言を受けて、地域スポーツクラブの生徒たちを中体連主催の大会の参加を認める方向で検討するというのが3月末に打ち出されている。認めるといっても、例えば資格の問題や、どういった地域から出場するようになるのか、など大きな問題があるので、1つ1つの問題について、日本中体連も詰めている。日本中体連の組織としての方向性もその参加資格のあり方の具体の部分についても、今後6月の中旬までには、全国の会議を用いて、提案されていくのが大きな流れとなっている。ただ、これは全国の話なので、各都道府県から勝ち上がってきた、例えば選手権で勝ち上がってきた生徒たちの全中の大会と、岡山県内というと、特にそれぞれスポーツクラブが在籍して住んでいる地域等、活動している場所が大きく違う。それから今現在岡山県の中学校体育連盟の参加資格でいうと、外部指導者が引率として認められる講師、先生が認めた場合に参加できるのは個人種目のみとなっている。団体種目については現在、岡山県中体連としては外部指導者の方の引率を認めていないということもあるので、色々な課題がある。それぞれの地域から子どもたちがどの支部で出場していくのかなど、そういったことについては、岡山県中体連として6月9日に新たな委員会を立ち上げる予定である。大会組織のあり方についての委員会を立ち上げて、6月9日に第1回の県内それぞれの支部の代表の方に集まっただきながら、年間4回、来年度の大会に向けて方向性は出たので、できるだけスムーズに大会が運営できるように、ということで検討する方向を考えているというところが、今の中体連として言える現状である。

私も今日スポーツ新聞の一面に大きく出ていたので、自分の学校の職員朝礼で一番に先生方にお伝えしたのは、不安を感じる生徒がいるかもしれないと思うが、今日の新聞やテレビの報道を含めて、例えば、「先生、部活動ってなくなるんですか」とか、そういった不安をもし言う子どもたちがいたら、その不安な気持ちをとりあえず解消してあげてください、今年度どうこう言うことではないですよ、皆が頑張っていることが続いていくよ、という形で不安な気持ちをなくしてあげてください、というのが今朝の第一声だった。

先ほど発言があったとおり、子どもを主体に考えていくということを中心に考えていかないといけないと思っているので、動いていく方向であってもその視点だけは残していかないといけない。例えば今の本校で言うと、陸上競技部はないが、専門のクラブで陸上をやっている生徒もいるし、陸上の大会にも出る。ただ、自分の今在籍している学校では違う部活動に入っている。土日については楽しんで陸上の方に行っているの、大会自体は陸上で出ている。平日の部活動では校内で楽しく友達と人間関係を作りながら楽しんでおり、2種目のスポーツを経験している子がたくさん校内にいる。それはそれで今向かっている方向と何ら違いはない。この種目が経験でき、一つ頑張っていく、それが例えば学校の部活動であれ地域スポーツであれ、大切にしていけないことだし、今話題になっている中体連の立場で言うと、学校でしていない子どもたちが学校単位でないと出場できないので、引率として必ずついていかなければならず、その先生は自分の持っている部活動とは違う大会の引率で行かないといけない。それは確かにその先生にとっては非常に負担になる部分というのがあるので、大会の参加規定が変わっていくことについては、そういった勤務負担軽減に繋がる可能性があるのかと。プラスで考えていけばそういうこともあるのかと思っている。

また、平日の部活動も段階的に移行していくという話もあるが、学校内の縦割りの活動や学年の活動の教育的効果を部活動以外で考えたときに、どのように準備が学校でできるのか。そういったことについては並行して考えていかないといけない。部活動の意義というのが資料の中にも二つ三つあるが、そういった活動をどう学校が作っていくのか。もし平日の部活動がなくなるのであれば、そういったことも並行して考えていかなければと保護者や生徒たちの理解はなかなか難しいのではないかと。とりあえず進めなければいけないが、そういった議論も並行してやる必要があるのかなと個人的に思っている。

○外部指導者の引率が認められることにならないのか。一つの危惧は、この移行期間中に部活動があるからこそ果たしていた学校教育上の議論、例えば生徒指導の問題や教科指導が結びついてる部分があり、これが平日も完全移行された後にどうなるのかという問題。

○団体種目については、監督資格がないので、今後考えていかなければならない。

○いろいろ課題もあるかとは思いますが、大会については子どもたちにとって非常に重要なところなので、やはり早急に検討が必要だが、外部指導者の引率は認められないというのは、部活動指導員でも駄目なのか。

○部活動指導員については今既に認められているので、外部指導者の方についても個人種目については学校長が認めた場合には認めているが、監督資格がないので、今後大会の在り方については、どういう形でしていくのか、ということが今後検討される。

○かなりルールが大変になりそうな感じもする。お話の中で、平日の種目と休日の種目が違うというのはある意味、子どもにとっては選択肢が広がるっていう話なので、これは地

域移行のメリットの一つかなと思う。平日はサッカー部に入っているが、休日は吹奏楽をやる、ということも可能になってくるので、学校の中で併部するというのは、なかなか現状難しいかもしれないが、地域に出すことで幅が広がるということはあると思う。

○地域部活動という言葉が出てきたとき衝撃だった。高校の教員として部活動で生徒を育ててきた。高校は実情に合わせて検討していくにとどまっているが、中学校の地域移行で育てられた生徒を高校でどう受け入れていくかを考えていかなければならない。私の感想のような形にはなるが、この地域部活動という言葉が最初に出てきたとき非常に衝撃で、一体この言葉は何なんだろう、そしてこれがどういうふうに進んでいくのだろう、と懸念している。私が小学校中学校高校大学と育てていただいたこのスポーツはどちらの方向へ行くのかと。私は高校の教員なので、高校の教員として部活動を通して生徒を育てていく。それから学校行事の中では育成できない面を持った教育的意義のあるその部活動がどちらの方向へ行くのだろうということで、非常に衝撃を受けたところだ。現場の先生がどういう考えを持たれているのかということで高体連としてはアンケートを取らせていただいた。そこからは外部指導者の問題であったり、これからの大会の在り方であったりそういったことが大きな問題として挙がってきた。県の教育委員会の方もアンケートを取って、同じような回答が返ってきているところだと思う。今日の新聞の方にも出ていたように、高校は義務教育ではないため、各校の実情に応じて検討すること、と出ていた。高校としては、部活動というのは今まで学校の魅力発信の大きなツールであり、生徒募集の武器にもなるものであったが、どういった方向性になるのかなというところで非常に疑問を感じたり不安を感じたりしていたところだ。

会が始まる前に、中体連ともお話をしたが、まだ形が見えないが、中学校の地域移行が先行して行って、そこで育てられた生徒たちが今度は高校へ上がってくるところで、高校としてどういう受け入れ方をしていったらいいのかというところも準備をしていかなければいけないのかと思う。

○地域移行が小学校から中学校までうまく移行されれば、高校もその流れに乗った方が良いと思う。もしかすると、地域移行が進むことで、小学校年代から中学校年代まで地域の中で一貫指導システムが完成する可能性があって、そういう意味ではそのまま高校の年代まで、地域の中の指導に乗った方がいいかもしれないという話になると、むしろ高校の部活動の意向についてはまだあまり表立って議論がスタートしてないが、むしろ地域の側からもう高校生までずっとうちのクラブでやったらいいよというような話が出てくる可能性もあると思うので、そういう意味では部活動の問題ではなくて、いわゆる競技力の向上の問題として、影響がある可能性もあるかなとも思っている。

もう一つ、地域移行をすることのメリットというのは、例えば中学生が少しリーダーのような、あるいはミニコーチのような形で小学生に関わるみたいなことというのはある意味中学生にとっては非常にいい経験の場になる。それは高校生が中学生の面倒を見ることで、地域の中で異年齢の繋がりができるとすれば、それは悪い話ではないなという気もするし、そういうのは今までは学校段階で切っていたわけだが、地域の中の異年齢でコミュ

ニティを作っていくということがもしできるなら、それはそれで重要なことになるかも知れない。そういう意味でいろいろあるが、事態は動くかなと思っている。野球はどうか。

○高校野球連盟としては野球だけが突出しているのですが、特別扱いという形であってはならないと私は思っている。教育の一環としてやる上では、やはり生徒の教育の場であるということ、部活動としてやっていきたいと思っている。ただ、県というレベルでいくと、いろいろな地域、やはり学区が広がってしまうので、自治体で賄っていただくということになると、練習の場であったり、硬式野球になると、安全面であったり、指導の面でも相当気をつけたいといけなくて、そういう面ではOBが関わるようなことが増えるので、地域に全て任せるとするのは今の段階ではなかなか難しいかなと思う。学区が広い中で、そこで育った中学生が、高校は別の地域に受験していくということもありえるので、そこと全然繋がらないというのは寂しいなとも思ってしまう。しかし、なかなかその地域だけで賄うということが難しいのではないかなと。

○文化部はいかがか。文化部は、それこそ多種多様でいろいろだということで、お話があったが、率直なところはどうか。

○文化部としては 22 ページの段階的な地域移行に向けてというところで考えており、19 ページに示されたものを見て大丈夫かなというのがはっきり言って思っているところである。中文連の会長として県北の校長先生と話をしたときに、そもそも部活動すら存続できない学校がたくさんある中で、地域に受け皿があるのかというのが懸念される場所である。フェーズ3では、もう全ての部活動、スポーツ文化活動を地域に移行すると言いながら、県南ではそれが可能かもしれないし、大学との連携やスポーツクラブ等たくさんあるので、先ほど言った素晴らしい絵柄が書けるが、県北の小さい学校で、地域の方と話していると、もう本当に高齢化が進んでいるところである。

会の中で私が一番若く、平均年齢が80歳を超えてるような中で、果たして地域が本当に受け入れ場所となりうるのか、またオンラインで指導すればいいじゃないかと思われるかもしれないが、文化的な絵画の指導であるとか、吹奏楽の指導で、どこまでそれができるのかというのは、すごく懸念される場所。やはり文化の格差であるとか、スポーツの格差が進むことというのはものすごく心配である。また、一校長として考えると、やはりクラブチームはすごくスポーツが得意なお子さんがあるイメージがある。地域移行したときに本当にスポーツが苦手な子でも、保護者がぜひ部活動に入れたいということで、友達との関わりを楽しみに来ている子たちがいる。果たして地域の受け皿でその子たちが受け入れてもらえるのか。得意でないがやっている友達がいるからやっている。本当は体を動かすことが苦手だがやっているという子たちが、果たしてこの地域移行したときにどこまで受け入れていただけるのか、ましてお金も保護者に負担がかかるようになったときに、保護者がそれを許してくれるのかというのは個人的にあまりいいイメージが持ちづらい。あと不安が強いなというところが実際のところで、まして、保護者の立場だともっともっと強いのではないかなというイメージがある。

○新庄村の小中学生が地元の太鼓の活動学習も含めやっている。おじいちゃんたちができないので楽譜に起こすところを中学生がやっている。それが地域の活動だとすれば、ある意味部活動のようなものが地域活動として行われて、おじいちゃん世代からなんとなく聞いているおじさんたちも一緒になって中学生と活動するみたいなことは現実にあったりして、本当にあの地域の側も持続可能じゃないということがまざまざとあるので難しいところだ。何かされている方がいらっしゃれば、一緒に活動することがあるのだと思うが、吹奏楽になると、これはいよいよ楽器はどうするのだ、というようなこともあるが、どうか。

○何かいい方法があれば教えてほしい。保護者の中には、教員が楽をするために部活動がなくなるというのが一番に来ている。いろんな面で改善してやってきているが、生徒や保護者、地域にわかりやすく説明しないと何にも前に進まないような気がする。行政も地域によって全然違い、市によってはすぐ飛びついて行けという話もあるかもしれないし、いやいやということもあるかもしれない。教育委員会の中でも担当がいる、いないのが今の現状だ。何かここで出来上がったものが全部の地域まで行けないような気がするので、その最低ラインの周知徹底ができて、お金のことなども全部こういうふうになる、デメリットの整理が全部でき、問題点や課題を全部洗い出してからでも遅くないと思いつつも、もうスタートしている、という状況を感じている。

○子どもたちも不安だろうし、親も自分たちがやってきた部活が脳裏に焼きついているので、そのイメージがどうしてもあるため、これからは本当に不安だと思う。ニュースで出てしまったので、捉え方としていろいろな保護者がいるので、部活動はなくなる、今度はお金が要るらしい、という極端な解釈をされる方もいると思う。先ほど言われた周知徹底もそうであるが、まずは各地域の行政が、保護者や先生方に早めにこういう方向になります、というのを第一声として説明していただいた方がいいのではないかなと思う。まだお金など細かいことはわからないが、とりあえずこういう方向ですというものを。もう始まっているため、個人的には遅いのなのかなと思うが。地域の行政の方も上の様子はどうなるかわからないが、様子を見ています、ということだったので、早めに説明をしていただきたいと思う。

○課題が山積であることは間違いないし、国のスピード感がかなり早いので、地方は47都道府県全て同じ状況だと思うが、岡山県は検討が進んでいる方だと思う。スポーツ庁のホームページには、昨年度にこの地域部活動推進事業を受けた全都道府県と政令市の報告書が全部載っているので、その温度差みたいなものや、取組の差みたいなものはご覧いただければわかるかなと思う。先ほど委員からもお話があったように、子どもが不安になったり保護者の方が少し不安になられたり、先走ったりということもあろうかなと思うので、ぜひ各学校をとおして、「こういう説明をしてください」というようなことは準備した方が良く思う。何より子どもが中心できちんとこれまでの活動がより豊かになるように、あるいは子どもが健全に育っていくように、そういう方向で改革を進めたい、ということもメッ

ページとして発したいと思う。むしろ、ではどうするのだと言われたときに、それは各地域、各学校できちんと当事者、保護者も含めて当事者で話し合っ決めていきましょう、コーディネーターも動くし県行政としても、一緒になって作っていききたい、というような出し方かと思う。磐梨ドリームタウンプロジェクトに中学生が入るという可能性もある。会議自体に中学生が入ることができたら結構面白いのではないかと個人的には思っている。中学生ぐらいになれば、自分達がスポーツの活動をする当事者として意見を言う場があってもいいのかなと思っている。

ドリームプロジェクト等もそのまま学校の先生や、OB、地域の方がされている。先ほど言わせてもらったように新聞にも出ているが資金をどうするか。大人の堅い考えを、子どもの考えだからできるところもあるのではないかとは思う。その柔らかい発想を入れるという意味ではプロジェクトの中に学校の代表の生徒も入ってもらって、生徒目線の課題というものもあると思う。そういったものを教員としてもしっかり把握していかないといけないと思うので、少し視野に入れながら、話を進めていければいいと思っている。

部活動は元々生徒の自主的自治的な活動であるので、ある意味、地域移行されたとしても、自分たちでクラブを作り、運営していくという意味で、子どもたちが自分たちの活動に年間いくらかかるのか、現状でいくら足りないのかを算出して、自分でお金を取りに行くというところまでもしできると、地元の社長さんは中学生に来られたら断れないということもあるだろうから、そういうことも含めて、ポジティブに捉えていくということが大事かなと思っている。

7 その他

意見なし

8 閉会